

2026年9月米CPI (消費者物価指数)

<結果概要>

・米9月CPI(総合)は、前年同月比では、+3.7%(8月:+3.4%)、変動の大きい食品とエネルギーを除くコアCPIは、+2.6%(8月:+2.4%)と伸びは加速した。前月比では、総合は+0.6%(8月:+0.4%)と上昇し、コアは+0.3%(8月:+0.3%)となった。

・CPI(総合、前月比)の寄与度別内訳では、中東情勢の先行き不透明感を背景とした原油高を受け、ガソリン価格が上昇したことから、エネルギーが+0.377%と前月の+0.154%から伸びが大幅に加速した。コアサービスについては住居費の上昇が牽引し、コア財は半導体価格の上昇の影響からそれぞれ伸びが加速した。

(単位: %)

	9月分	市場予想(9月分)	8月分
CPI(前月比)	0.6	0.6	0.4
CPI(前年同月比)	3.7	3.6	3.4
コアCPI(前月比)	0.3	0.2	0.3
コアCPI(前年同月比)	2.6	2.5	2.4

<寄与度別内訳(前月比)>

(単位: %)

主な項目	9月分	8月分
全項目	0.649	0.396
コアサービス	0.221	0.197
(うち住居費)	0.138	0.093
コア財	0.048	0.020
食品	0.006	0.017
エネルギー	0.377	0.154

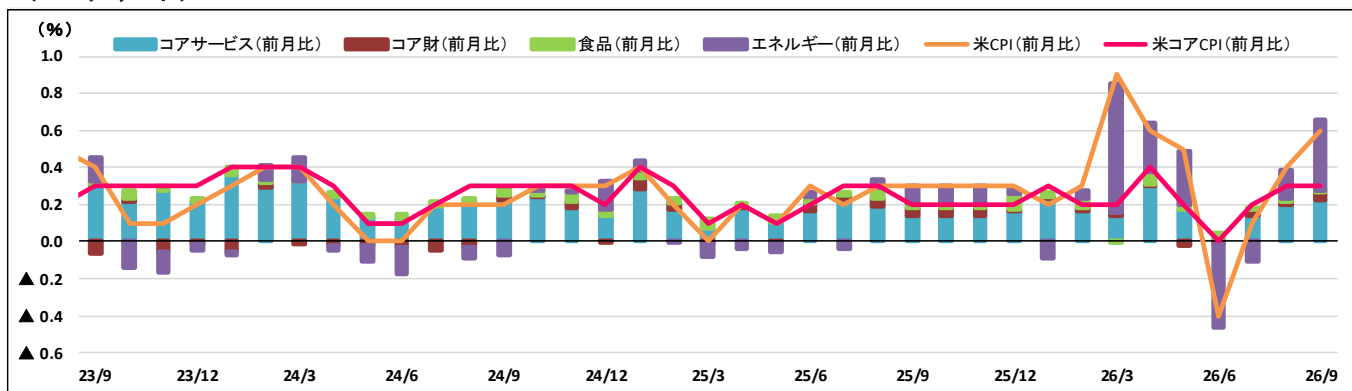
CPI(消費者物価指数)とは

・米国の消費者物価指数は、家計が購入する財・サービス価格の平均的な変化を測定する月次の物価指標であり、調査は衣類や食品等をはじめとして200以上のカテゴリで実施される。

・全体の物価の変化率を示す「総合」と変動の大きいエネルギー関連指数や食料品目を除いた基調的なインフレの動向を示す「コア」に分けられる。

・FRB(米連邦準備制度理事会)は、「物価の安定」と「雇用の最大化」を目標に掲げていることから、金融政策の動向を見極めるうえで米CPIは非常に注目度が高い。

<CPIチャート>



出所: 米労働統計局、Bloombergより足利銀行資金証券部作成

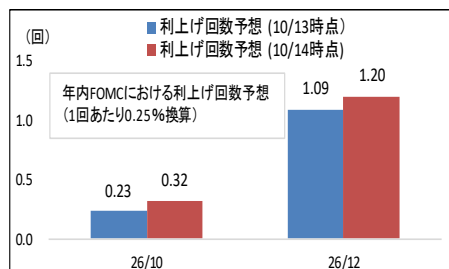
<今回のポイント>

・今回のCPIは、中東情勢の先行き不透明感を背景としたエネルギー価格の上昇が幅広い項目に波及し物価全体を押し上げた。また、AIブームが物価上昇圧力を生んでおり、ハイテク製品の需要逼迫を背景に価格が上昇している。CPI公表後にグールズビーシカゴ連銀総裁は、インフレ改善の兆しがほとんど見られなかったとし、物価上昇圧力の動向を懸念する発言がみられた。

・CPIの結果を受けて利上げ観測は高まった。FF金利先物市場における年内の利上げ回数予想はCPI公表前の1.09回(1回あたり0.25%換算)から公表後は1.20回へ増加した。

<市場動向>

	10月14日	10月13日	前日比
ドル/円相場(円)	158.33	158.33	0.00
ダウ平均株価(ドル)	51,621.48	51,670.10	▲ 48.62
S&P500(ポイント)	7,718.94	7,805.45	▲ 86.51
NASDAQ(ポイント)	26,692.87	27,204.38	▲ 511.51
米2年国債利回り(%)	4.80	4.79	0.01
米10年国債利回り(%)	5.19	5.21	▲ 0.02



※本資料は情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料の内容は発行日現在のものであり、将来予告なく変更されることもあります。本資料は信頼できると考えられるデータに基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料は証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではなく、将来の市場環境等を保証するものではありません。